

## 《第 34 号》「環境にやさしい街づくりのパートナーとして」

綱嶋信一(品川区商店街連合会副会長)

品川区の商店街では、マイバック持参と地域通貨を結びつけた「エココイン」システムをはじめ、空缶回収機「エコスポット」の設置、エコスポットやレジ袋削減でもらえる「エコポイント」、「地域にやさしいお店」の PR、各種環境関連イベントの開催等など、環境をキーワードにしたいろいろな取り組みを行なっています。やれることをやれる人がやる、楽しんでやる、ということをもっと、地道な活動を続けていきます。

大学生に商店街で買い物をする頻度を聞いたところ、週に 1 回程度という答えが多かった。若い人にとって、地域の商店街は買い物をする場所ではなくなっているのかもしれない。一方で、環境がテーマの論文の題材に商店街を選ぶ学生さんがいるなど、若い人も含め、地域の商店街に興味を持つ人が増えているという実感もあります。私たちも商店街の楽しさ、豊かさをもっとアピールすべきだし、一つ一つの地道な取り組みから地域全体を変えていく、という姿勢が大事だと思っています。

街づくりのパートナーとして頑張っていることを知ってもらう上で、環境というキーワードはわかりやすいものだと思います。でも、理念の押し付けではなく、自分たちも楽しみながらいろいろな提案を出し続ける、ということをやってきました。

楽しくなければ人は集まりません。そして、自分たちで抱え込んでしまうのではなく、多くの人を巻き込んでいく、その演出をどうするかということだと思います。そのような中で、いろいろなアイデアが生まれます。例えば最近では、隣接した区同士の若い人たちが中心になって、両区に広がる「林試の森」で環境イベントを毎年開催しており、それとリンクしたカードを商店街で配る、ということもしています。環境にやさしい商店街の取り組みは、それぞれが地道に行なっているよい取り組みを地域全体につなげて行くことなのだと思います。(談)

以上